

英語好きになれたのがギフト



「東京五輪に向けて走り続ける」と與那嶺恵理さん

大学受験のために活動に
来ない部員と衝突した。
「なんで、みんな好きな
時にだけ来るんだらうと
思って。でも、それぞれ
プライオリティー（優先
順位）が違う。当時は自
分の意見を押しつけてい
たな、と反省します」。

他人と比べるのは良くな
いことを学んだという。

大学2年の時に自転車
競技と出会い、翌年出場
した全日本選手権で2位
に。舞台は世界に広がっ
た。リオ五輪での成績は、
個人ロードタイムトライ
アル15位、個人ロードレ
ース17位。「悔しさは残
りますが、これが今の実
力。次につながる大会に
なりました」。2020
年の東京五輪では、表彰
台をめざす。

現在は、フランスのチ
ームで活躍する。チーム
メートとは英語で会話
し、普段の買い物などは
「体をはったフランス語」

を使う。「外国語を使う
のに抵抗がないのは、神
戸女学院で培った度胸の
おかげかな」と笑う。

英語の授業では、日本
語を一切使わない。近畿
大学教授で通訳者の内藤
能さん(65、1970年
卒)は中学1年の時に最
初に受けた英語の授業を
覚えている。

「私はABCも書けな
い状態で。すてきな女性
の先生が、お人形を持っ
て教室に入ってきた。あ
いさつの仕方を教わった
のが楽しかった」。英語
を好きになり、高校3年
の時に米国に留学した。

マクドナルドも日本に
ない時代で、米国は憧れ
の国だった。「ラッキー
だったのは、良いホスト
ファミリーに恵まれたこ
と。今も家族づきあいが
続いています」

航空会社に勤めたが、
夫の転勤を機に渡米。帰
国後「自分にできる社会
活動をしよう」と通訳者
になった。

大阪府知事の通訳を20
年間、5人にわたり務め
た。米国のブッシュ大統
領(父)や俳優のアーノ
ルド・シュワルツェネッ
ガーさんの通訳も担当し
た。「私にとって英語は、
自分の知らない世界に行
くために必要でした。英
語を好きにさせてもらえ
たこと。それが、女学院
から与えられたギフトで
す」(中塚慧)



「すてきな校舎でのびのびと過ごせました」と内藤能さん

神戸女学院は1875
年、神戸市につくられた
「女学校」が始まりだ。
1933年に西宮市の岡
田山に移転。校舎は、キ
リスト教プロテスタント
の伝道者で建築家、ウィ
リアム・メレル・ポーリ
ズによる。太平洋戦争と
阪神・淡路大震災をくぐ
り抜け、国の重要文化財
に指定されている。

「ハリ・ポッターの
世界みたい」。自転車競
技で昨年のリオデジャネ
イロ五輪に出場した與那
嶺恵理さん(25、201
0年卒)は荘厳な雰囲気
の講堂に感動し、受験を
決めた。

中高6年間、テニス部
に所属。高校2年のころ、